

地域包括ケアを支える人材の在り方と役割

～領域や世代を超えた支え合いの実現のために～

(東京都社会福祉審議会意見具申)

平成29年2月14日

第 20 期東京都社会福祉審議会 審議経過

開催日 (年月日)	区分	審議内容
平成 26 年 4 月 22 日	審議会 (第 62 回)	(1) 委員長の選任 (2) 専門分科会の設置
平成 28 年 1 月 26 日	審議会 (第 63 回)	(1) 第 20 期の審議課題の設定 (2) 検討分科会の設置
平成 28 年 5 月 25 日	検討分科会 (第 1 回)	(1) 委員による発表 ・地域包括ケアを担う人材について (久留善武委員) ・民間事業者における人材の確保・育成・定着への取組と課題について (馬袋秀男委員) ・福祉人材 (フォーマル) の確保と養成について (藤井賢一郎委員) (2) 発表内容を踏まえた議論 (主にフォーマルサービス)
平成 28 年 6 月 21 日	検討分科会 (第 2 回)	(1) 委員による発表 ・「つながる」地域包括ケア 医療と介護をつなぐ地域の力 (秋山正子委員) ・武蔵野市における地域包括ケアシステム推進へ向けた住民参加型介護人材育成と共助の取り組み (笹井肇委員) ・地域包括ケアの担い手を考える: 支えあい育みあう地域づくりの加速に向けて (堀田聡子委員) (2) 発表内容を踏まえた議論 (主にインフォーマルサポート)
平成 28 年 7 月 22 日	起草委員会 (第 1 回)	課題抽出・論点整理
平成 28 年 9 月 6 日	起草委員会 (第 2 回)	意見具申骨子 (素案) の作成
平成 28 年 10 月 25 日	検討分科会 (第 3 回・拡大)	意見具申骨子 (素案) の検討
平成 28 年 11 月 21 日	起草委員会 (第 3 回)	意見具申 (案) の作成
平成 28 年 12 月 20 日	起草委員会 (第 4 回)	意見具申 (案) の作成
平成 29 年 1 月 23 日	検討分科会 (第 4 回・拡大)	意見具申 (案) の審議
平成 29 年 2 月 14 日	審議会 (第 64 回)	意見具申

《意見具申の概要》地域包括ケアを支える人材の在り方と役割

～領域や世代を超えた支え合いの実現のために～

基本的な課題認識

地域包括ケアを実現するためには、サービス提供を担う人材について、フォーマルサービス、インフォーマルサポート共に、いかに確保、育成、定着を図っていくのかが鍵

意見具申のポイント

フォーマルサービス

★先進的な事例の紹介

インフォーマルサポート

【人材の確保】

- 小学校から高齢者までの全世代型の確保策実施
- 潜在有資格者や転職者が就労しやすい条件整備
- イメージアップに向け職場環境の正確な情報発信

【人材の育成】

- 専門性の向上と専門性を評価する仕組みづくり
- 定着率向上のためのマネジメント層の意識づけ

【人材の定着】

- 育児休業等から復帰しやすくする職場環境づくり
- ICTやIoTの活用による効率性の向上や負担軽減

【その他】

- 高齢者など多様な人材の活躍可能な場の創出

【ボランティアや地域住民の力を引き出す方策】

- 専門職と地域住民によるフラットな関係での協働
- 民生委員や自治会等の地域の既存資源の活用
- SNS等も活用した各地域における活動の見える化

【フォーマルとインフォーマルを結び付ける人材】

- コーディネート役の人材の重要性と養成の必要性
- 専門職の関与で地域活動の活性化とレベル向上

【その他】

- 社会福祉法人、企業活動、教育部門など、東京で活動する様々な主体の専門性やノウハウの還元
- 地域住民が専門性を修得したり、専門職が地域のコア人材として活躍していく等の人材の循環

各主体に期待される行動

【事業者】 普段から地域との関わりを持ち、地域の一員として活動することで助け合いや人材確保を実現

【専門職】 専門性の向上を図ると同時に、従来の活動範囲を超え、住民の一人として地域での幅広い活躍

【地域住民】 地域の課題を「自分ごと」と捉え、他の住民や組織と協働しながら積極的に様々な活動に参加

【区市町村】 地域単位で計画を立てた施策展開、地域住民の生活を包括的に支援できる仕組みの構築

【東京都】 既存施策を絶えず評価・検証し、民間の知恵も積極的に取り入れ、人材対策施策を立案し実行

大都市東京にふさわしい、領域や世代、対象者の区別を超えた地域包括ケアシステムの実現